



---

**SDI**

スタンダード&プロシージャーマニュアル

---

パート**2**：ダイバー・スタンダード

**Scuba Diving International**

tdisdi.com

## 目次

<b>1.</b>	<b>コースの概要一覧 .....</b>	<b>1</b>
<b>2.</b>	<b>一般コーススタンダード .....</b>	<b>2</b>
2.1	行政.....	2
2.2	事故.....	2
2.3	定義.....	3
2.4	器材.....	3
2.5	限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング.....	3
2.6	オープンウォータートレーニング.....	3
2.7	講習生必須器材.....	4
2.8	インストラクター必須器材.....	5
2.9	テンポラリーCカード.....	6
2.10	SDIジュニア認定からフルSDI認定へのアップグレード.....	6
<b>3.</b>	<b>スノーケラーコース .....</b>	<b>7</b>
3.1	イントロダクション.....	7
3.2	修了者に与えられる資格.....	7
3.3	指導できるインストラクター.....	7
3.4	講習生とインストラクターの人数比.....	7
3.5	講習生参加前条件.....	8
3.6	コース構成と時間.....	8
3.7	事務手続き.....	8
3.8	必須器材.....	9
3.9	学科アウトライン.....	9
3.10	スキル達成条件と修了条件.....	10
<b>4.</b>	<b>スクーバディスカバリー .....</b>	<b>12</b>
4.1	イントロダクション.....	12

SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

---

4.2	修了者に与えられる資格.....	12
4.3	指導できるインストラクター.....	12
4.4	講習生とインストラクターの人数比.....	12
4.5	講習生参加前条件.....	13
4.6	コース構成と時間.....	14
4.7	事務手続き.....	14
4.8	トレーニング教材.....	15
4.9	必須器材.....	15
4.10	学科アウトライン.....	15
4.11	スキル達成条件と修了条件.....	16
<b>5.</b>	<b>フューチャーバディ.....</b>	<b>18</b>
5.1	イントロダクション.....	18
5.2	修了者に与えられる資格.....	18
5.3	指導できるインストラクター.....	18
5.4	講習生とインストラクターの人数比.....	18
5.5	講習生参加前条件.....	18
5.6	コース構成と時間.....	18
5.7	事務手続き.....	19
5.8	必須器材.....	19
5.9	学科アウトライン.....	19
5.10	スキル達成条件と修了条件.....	21
<b>6.</b>	<b>スーパーバイズダイバー.....</b>	<b>22</b>
6.1	イントロダクション.....	22
6.2	修了者に与えられる資格.....	22
6.3	指導できるインストラクター.....	22
6.4	講習生とインストラクターの人数比.....	22
6.5	講習生参加前条件.....	23
6.6	コース構成と時間.....	23

SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

---

6.7	事務手続き .....	24
6.8	必須器材 .....	24
6.9	学科アウトライン .....	24
6.10	スキル達成条件と修了条件 .....	27
6.11	オープンウォーター・グローバル・レフェラル・プロシージャー .....	29
6.12	スーパーバイザーからオープンウォーター・スクーバ・ダイバーへのアップグレード手順 .....	30
<b>7.</b>	<b>オープンウォータースクーバダイバー .....</b>	<b>31</b>
7.1	イントロダクション .....	31
7.2	修了者に与えられる資格 .....	31
7.3	指導できるインストラクター .....	31
7.4	講習生とインストラクターの人数比 .....	31
7.5	講習生参加前条件 .....	32
7.6	コース構成と時間 .....	32
7.7	事務手続き .....	33
7.8	必須器材 .....	33
7.9	学科アウトライン .....	33
7.10	スキル達成条件と修了条件 .....	36
7.11	オープンウォーター・グローバル・レフェラル・プロシージャー .....	38
<b>8.</b>	<b>ノンアクティブダイバープログラム / リフレッシュャー .....</b>	<b>40</b>
8.1	イントロダクション .....	40
8.2	修了者に与えられる資格 .....	40
8.3	指導できるインストラクター .....	40
8.4	講習生とインストラクターの人数比 .....	40
8.5	講習生参加前条件 .....	41
8.6	コース構成と時間 .....	41
8.7	事務手続き .....	41
8.8	必須器材 .....	42

SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

---

8.9	スキル達成条件と修了条件 .....	42
<b>9.</b>	<b>アコンプリッシュトウダイバープログラム(Accomplished Diver Program).....</b>	<b>44</b>
9.1	イントロダクション .....	44
9.2	修了者に与えられる資格.....	44
9.3	指導できるインストラクター .....	44
9.4	講習生とインストラクターの人数比.....	44
9.5	講習生参加前条件 .....	45
9.6	コース構成と時間 .....	45
9.7	事務手続き .....	45
9.8	必須器材 .....	46
9.9	スキル達成条件と修了条件 .....	46
<b>10.</b>	<b>アドバンスダイバー.....</b>	<b>48</b>
10.1	イントロダクション .....	48
10.2	指導できるインストラクター .....	48
10.3	卒業要件 .....	48
<b>11.</b>	<b>レスキューダイバー .....</b>	<b>49</b>
11.1	イントロダクション .....	49
11.2	修了者に与えられる資格.....	49
11.3	指導できるインストラクター .....	49
11.4	講習生とインストラクターの人数比.....	49
11.5	講習生参加前条件 .....	50
11.6	コース構成と時間 .....	50
11.7	事務手続き .....	50
11.8	トレーニング教材 .....	51
11.9	必須器材 .....	51
11.10	学科アウトライン .....	51

SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

---

11.11	スキル達成条件と修了条件 .....	52
<b>12.</b>	<b>マスタースクーバダイバー(Master Diver) .....</b>	<b>54</b>
12.1	イントロダクション .....	54
12.2	指導できるインストラクター .....	54
12.3	卒業要件 .....	54
<b>13.</b>	<b>シャローウォータースクーパーダイバー .....</b>	<b>55</b>
13.1	イントロダクション .....	55
13.2	修了者に与えられる資格 .....	55
13.3	指導できるインストラクター .....	55
13.4	講習生とインストラクターの人数比 .....	55
13.5	講習生参加前条件 .....	56
13.6	コース構成と時間 .....	56
13.7	事務手続き .....	57
13.8	トレーニング教材 .....	57
13.9	必須器材 .....	57
13.10	学科アウトライン .....	58
13.11	スキル達成条件と修了条件 .....	60
<b>14.</b>	<b>インドアダイバー .....</b>	<b>62</b>
14.1	イントロダクション .....	62
14.2	定義 .....	62
14.3	修了者に与えられる資格 .....	62
14.4	指導できるインストラクター .....	62
14.5	講習生とインストラクターの人数比 .....	62
14.6	講習生参加前条件 .....	63
14.7	コース構成と時間 .....	63
14.8	事務手続き .....	64
14.9	トレーニング教材 .....	64

SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

14.10	必須器材 .....	65
14.11	学科アウトライン .....	65
14.12	スキル達成条件と修了条件 .....	67
14.13	インドア・ダイバーからオープンウォーター・スクーバ・ダイバーへ .....	69

**改訂履歴**

改訂 ナンバー	日付	変更
2.0	05/27/2001	このマニュアルは、完全に再構成され、最新の変更と追加を反映して更新されました。
2.1	09/04/2001	編集とマイナーアップデート
2.2	10/10/2002	最新のトレーニングアップデートに更新
3.0	08/15/2003	最新のトレーニングアップデートに更新
3.1	12/19/2003	編集とマイナーアップデート
5.0	11/19/2004	メジャーアップデートと新しいコーススタンダード
6.0	10/13/2005	2005年のトレーニングアップデートに更新
7.0	10/27/2006	編集上の変更と2006年のトレーニングアップデートを追加
8.0	11/13/2007	2007年のトレーニングアップデートに更新
9.0	11/13/2008	マイナーアップデートと明確化
10.0	12/31/2009	2009年のトレーニングアップデートに更新 マイナー編集
11.0	01/01/2011	メジャー編集とマニュアルの再フォーマット オープンウォーターダイバーリファラール手順を追加
12.0	01/01/2012	スノーケリングスタンダード3.9:学科アウトラインにハンバーベンチレーション、シャロー ウォーターブラックアウトを追加 ノンアクティブダイバースタンダード7.6:ダイビングは、限定水域(コンファインドウォーター) またはオープンウォーターのいずれかです

## SDIスタンダード&amp;プロシーチャーマニュアル

## パート2ダイバースタンダード

		シャローウォータースクーパーダイバースタンダード：11.4 資格のあるアシスタントとしてダイブマスターを追加
13.0	01/01/2013	変更なし
13.1	03/01/2013	レスキューダイバーの参加前条件をSDIアドバンスアドベンチャーダイバーに変更
13.2	07/01/2013	スクーバディスカバリーに変更 4.4 講習生とインストラクターの人数比：プール6：1、オープンウォーター2：1、14歳未満のダイバー向けステートメントを追加 4.6 オープンウォーターの前にプールまたは限定水域(コンファインドウォーター)の時間を追加し、最大深度を9m(30ft)に変更 4.9 コミュニケーション言語を学科アウトラインへ追加 4.10 スキル達成条件と修了条件 アイテム#3水面でのウエイトシステムの脱着を追加 オーラルインフレーションをアイテム#6に追加 コミュニケーション言語をアイテム#12に追加 オープンウォータースクーパーダイバー：6.6インストラクターのカメラ機材の携行に関する声明を追加
13.3	10/01/2013	オープンウォータースクーパーダイバー 6.10「スクーバのスキルを教える前に、泳力の評価を完了する必要がある」注を追加
14.0	01/01/2014	変更なし
14.1	04/01/2014	2.9ジュニアオープンウォーターダイバーのオープンウォーターダイバーアップグレード手順を追加
15.0	01/01/2015	変更なし
15.1	04/01/2015	10.1対象スペシャルティにTDIおよびERDIを追加 10.2認定インストラクターにTDIおよびERDIを追加 10.3対象スペシャルティにTDIおよびERDIを追加 アドバンスオープンウォーターダイバーから「オープンウォーター」を削除 認定登録を送信する場所に地域事務局を追加 Webサイト名にTDI / ERDIを追加 12.1 TDI、ERDIおよび同等ランクを対象スペシャルティに追加 12.2認定インストラクターにTDIおよびERDIを追加 12.3対象スペシャルティにTDIおよびERDIを追加
15.2	08/01/2015	変更なし
15.3	11/01/2015	2ページ目：アメリカ本部の情報を更新 11.11.3 レスキューエグザム(学科テスト)をレスキューダイバーknowledge Questに変更
16.0	01/01/2016	変更なし



SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

16.1	04/01/2016	変更なし
16.2	07/01/2016	6.10「スクーバのスキルを教える前に、泳力の評価を完了する必要がある」注を追加
17.0	01/01/2017	変更なし
18.0	05/12/2018	2.3参加前条件の定義を追加 6.2 ISO / EUF認証の改訂 7.2 ISO / EUF認証の改訂
19.0	01/01/2019	1.ノンアクティブダイバーとアカンプリッシュダイバーコースの人数比と参加前条件を修正 2.1.2ダイバーメディカル要件の明確化 2.2事故セクションへの参照を追加 11.5.2 有資格インストラクターによるコースに伴うCPR(心肺蘇生法)、ファーストエイド(応急手当)、酸素管理プロバイダーのトレーニングを明確化 書式設定の更新
0120	01/01/2020	1. 11「最低年齢」を10歳に変更 2.1.2医師の署名入りダイバーメディカルの正式表記を定義 7.5.3「SDIオープンウォータースクーバダイバー」に統一し、アイテムを拡張 11.5.1 親の同意が必要な最低年齢を15歳から10歳に変更 11.5.3「または同等の」の前に「SDIジュニアアドバンスアドベンチャー」を追加 11.5 アイテム#4追加 11.6リストを11.11に移動 11.11.3 eラーニングを追加
0620	06/01/2020	変更なし
0121	01/01/2021	多数のミススペルを修正 4.8.1 項目の明確化 7.6.2 RSTCスタンダードと連携したトレーニング深度の変更 8.7 最終段落の明確化 10.3 項目1の明確化 12.3 項目1の明確化
0221	02/01/2021	変更なし
0122	01/01/2022	1.マスタースクーバダイバーの最少年齢を10歳へ変更 4.9 4.8に既にリストされている必須教材を削除 4.10 項目の展開 6.6オープンウォータートレーニング - トレーニング深度を「5~12m(15~40ft)へ変更 8.8 オプション教材の追加 11.5.3オープンウォーターダイビング経験数を15へ変更 11.5.4項目の展開
0122a	01/01/2022	変更なし
0122b	01/26/2022	14.「インドアダイバー」の新スタンダードを追加

## SDIスタンダード&amp;プロシージャーマニュアル

## パート2ダイバースタンダード

0522	05/20/2022	14.7 項目2を「5~18m(15~60ft)」から「6~18m(20~60ft)」に変更
0123	08/25/2022	1.11 参加前条件ダイブを更新 6.2 スーパーバイズドダイバー認定に関する制限の明確化 11.5 コースに含まれるファーストエイド(応急手当)、CPR(心肺蘇生法)、酸素プロバイダーの認定条件を変更し、適切なFirst Responseコースを参照するように変更
0723	07/17/2023	1.4 OW人数比をアップデート 4.3 指導できるインストラクターを明確化 4.4 講習生とインストラクターの人数比をアップデート、人数比に影響を与える環境要因を追加 4.6 コース構成を明確化
0124	01/01/2024	1.8 限定水域(コンファインドウォーター)の人数比をアップデート、体験カードの発行について明確化 2.1.2 医師の診断書の要件について明確化 2.5.1 最低透視度を明確化 2.8 注：- バックマウントシングルタンク条件を明確化 6.10 ヘッダーをオープンウォータースタンダードと一致 8.3 指導できるインストラクターを明確化 11.11 スキル開発を明確化する注を追加

## 1. コースの概要一覧

	コース名	最少年齢	数 必須ダイブ	学生から インストラクター 比率	学生から インストラクター 比率	前提条件 認証と ダイビング	Cカード が発行しなければ ならない。	エクスプレス ・カード が発行できる
3	スノーケラー	4	1	16	10	なし	オプション	Yes
4	スクーバディスカバリー	10	1	4	4	なし	No	はい
5	フューチャーバディ	8	1	2	該当 なし	なし	オプション	はい
6	スーパーバイズドダイバー	10	2	8	8	なし	はい	いいえ
7	オープンウォータースクーバ ダイバー	10	4	8	8	なし	はい	いいえ
8	ノンアクティブダイバー/リフ レッシュャー	10	1	10	8	開 水 ダイバー	No	Yes
9	アコンプリッシュトウダイバ ー	10	1	8	8	認定済 を持つダイバーがい る。 認知されている スキューバ・エージ ェンシー ぐんじんダイバー または50の証明 伐採時間 ダイビング	Yes	いいえ
10	アドバンスダイバー	10	該当 なし	該当 なし	該当 なし	25 オープンウォーター ダイブ+4 特産品	Yes	いいえ
11	レスキューダイバー	10	該当 なし	10	8	アドバンスド アドベンチャー・ダ イバー または15オープン 水中ダイブ CPR+ ファーストエイド	Yes	いいえ
12	マスタースクーバダイバー	10	該当 なし	該当 なし	該当 なし	50オープンウオータ ー ダイブ+レスキュー ダイバー+4 特産品	Yes	いいえ
13	シャローウォーターダイバー	10	2	10	8	なし	はい	No

## 2. 一般コーススタンダード

このスタンダードは、このセクションでリストされているSDIダイバーコースとスペシャルティコースに適用される。

### 2.1 行政

インストラクターは、スペシャルティコースを含む講習生が参加する全てのコースごとにそれぞれフォームを作成し、全ての講習生が以下のフォームに記入することを確認しなければならない。これらの記録は、コース開始前に完了しなければならない。最低7年間は保管が必要である。

1. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
2. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート(ノンダイビングコースのスタンダードで特に義務付けされていない場合を除く)もし講習生のダイバーメディカル上の回答が、ダイビングを行うには医師の許可が必要であることを示すものであった場合、その講習生は、いかなるコースまたはスペシャルティトレーニングの限定水域またはオープンウォータートレーニングに参加する前に、制限なくダイビングを行うための医師による承諾書を提出しなければならない。医師が署名したダイバーメディカルは、より長い有効期間が示されている特定のフォームの場合を除き、病状に変化なければ最大12か月間有効。
3. SDIダイバー登録申請フォーム、または、できればSDIウェブサイトのメンバーセクションからオンラインで講習生を認定する(該当コース修了時)
4. SDIスチューデントトレーニングレコード最低7年間は保管が必要である。

### 2.2 事故

メンバーが下記のことを行う必要がないことを願っていますが、もしもメンバーが事故に巻き込まれた場合、または単に事故を目撃した場合は、SDIインシデント/事故レポートをメンバーまたは目撃者が記入し、事故発生後すぐにSDIアメリカ本部に送信する必要があります。SDIスタンダード、Part 1、セクション6.4.8を参照してください。

International

Training®では、インシデント/事故が発生した場合には、事故者のダイブコンピュータを確保し、ログデータをダウンロードすることを強く推奨します。これは、警察などの捜査当局に被害者のダイブコンピュータからデータをダウンロードして保存するよう依頼し、地元当局と全面的に協力して行うべきである。メンバーが当局宛ての報告書を作成する場合は、必ずこの作業をしなければならない。また、インシデント/事故に関与したプロフェッショナルメンバーは、自分のダイブコンピュータのログデータをダウンロードし、インシデント/事故レポートと一緒に提出しなければならない。

## 2.3 定義

アシスタントまたはアシスト=自分が指導する資格がないコースを開催しているインストラクター、コースディレクターまたはインストラクタートレーナーをアシストする人。アシスタントは、追加の監督活動やスタンダードと環境が許容する範囲内でインストラクターと講習生の人数比を増やすために採用される。登録時にリストされたアシスタントは、アシストしたコースの経験クレジットが認められる。

### 共同開催(コーティーチ/Co-

**Teach)**またはセカンドインストラクター=そのコースを指導できる資格を有しており、他の資格のあるインストラクターと一緒に講習するインストラクター、コースディレクターまたはインストラクタートレーナー。登録時にリストされたセカンドインストラクターは、同等のクレジットが認められる。

講習生参加前条件=コースを開始する前に講習生が満たさなければならない条件。スタンダード内で特に記載されていない限り、これらの条件をコース中に満たすことはできない。ここにリストされている条件を、インストラクターの判断で免除することはできない。参加前条件の書面によるスタンダードの免除は、コース、ダイブサイト、およびコース参加者の特定の過去の経験に応じて、アメリカ本部トレーニング部門によって発行される場合がある。

## 2.4 器材

SDIコースの限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング及びオープンウォータートレーニング中、講習生はパーソナルダイブコンピュータ(PDC)を使用しなければならない。

## 2.5 限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング

限定水域トレーニングは、プールや、以下のような条件を持つ限定水域で実施すること：

1. 透視度が3m(10ft)以上
2. 水面が穏やか
3. 講習生が水面から頭を出して立つことができる水深までアクセスが容易
4. 限定水域セクションに記載されている全てのスキルを行うのに適した水深
5. トレーニングサイトに適した器材がある
6. プール以外の場所で限定水域トレーニングを行う場合は、必ずSDIアメリカ本部の事前承認を得なければならない

## 2.6 オープンウォータートレーニング

インストラクターは、以下の点を考慮し、オープンウォータートレーニングサイトを選択すること：

1. 地域のダイビング条件に近い水域(海、湖など)

2. スイミングプールをオープンウォータートレーニング環境として使う事はできない
3. 透視度
4. 気温と水温
5. 気象状況
6. 水域までのアクセス
7. コンディションに適した器材がある
8. コンディションに適した防寒対策(保護スーツ)がある
9. いかなるダイビングも減圧停止を必要としない
10. 特に記載がない限り、オーバーヘッド環境でのダイビングを実施してはならない
11. ブリーフィングに含まれるべき内容：
  - a. ダイブサイト
  - b. 海況/水況
  - c. 実施するスキル
  - d. エントリー/エキジット方法
  - e. 緊急時の手順
12. デブリーフィングに含まれるべき内容：
  - a. ダイバー全体としてのパフォーマンス
  - b. 改善が必要な事項
  - c. 環境観察
  - d. 質疑応答

## 2.7 講習生必須器材

講習生は下記の器材を携行し使用しなければならない：

1. マスク、フィン、スノーケル
2. BCD(パワーインフレーターが取り付けられたもの)
3. SPG(残圧計)付きレギュレーター
4. オルタネイトエアソース
5. ウェイトシステム
6. パーソナルダイブコンピュータ(PDC) - 特に断りのない限り

7. トレーニング環境に適した保護スーツ
8. 圧縮ガスシリンダー
9. 水中コンパス(ナビゲーションで使用)
10. レスキューシグナル

注：エアーインテグレーション機能付きダイブコンピュータを使用している講習生は、残圧計を使用しなくてもよい。

## 2.8 インストラクター必須器材

特に断りのない限り、インストラクター、アシスタントインストラクター、ダイブマスターのトレーニング必須器材は以下のとおり：

1. マスク、フィン、スノーケル
2. BCD(パワーインフレーターが取り付けられたもの)
3. SPG(残圧計)付きレギュレーター
4. オルタネイトエアソース
5. ウェイトシステム
6. パーソナルダイブコンピュータ(PDC)
7. トレーニング環境に適した保護スーツ
8. 圧縮ガスシリンダー
9. コンパス
10. カuttingデバイス
11. レスキューシグナル
12. オープンウォーター環境では、ダイブフラッグを現地の法律や規則に従って携帯すること

注：エアーインテグレーション機能付きダイブコンピュータを使用しているインストラクターは、残圧計を使用しなくてもよい。

注：SDIスタンダードで使用されるシリンダー容量は、製造業者の値または一般化された変換に基づいており、シリンダーの体積と使用圧力の違いによるメートル法からヤードポンド法への正確な変換ではない。メートル法のシリンダーを使用する場合は、記載されているメートル法のサイズのシリンダーを使用すること。同様に、ヤードポンド法のシリンダーを使用する場合は、記載されているヤードポンドサイズのシリンダーを使用すること。例：3L(18cf)

注：次のコースでは、インストラクター、アシスタント、そして講習生がシングルシリンダーバックマウントコンフィグレーションを使用しなければならない：スクーバディスカバリー、オープンウォータースクーバダイバー

## 2.9 テンポラリーCカード

テンポラリーCカードはSDIアメリカ本部から購入でき、全てのの達成条件と事務手続きが満たされた後に発行される。テンポラリーCカードはコース終了後10日以内に署名する必要がある、その署名から30日間有効である。

## 2.10 SDIジュニア認定からフルSDI認定へのアップグレード

これは、当初ジュニア指定で認定されたが、現在は年齢に関する制限なしでフル認定にアップグレードする資格があるダイバー向けの手順である。

アップグレード条件：

1. 最初の認定証明を提示する：Cカード、または教育機関のレターヘッド付きの公式認定証明書
2. 過去12か月のダイビングアクティビティ記録を提出：ログブックまたはパーソナルダイビングコンピュータのログダウンロード\*
3. 18歳未満のダイバーは、親または法定後見人が署名したアップグレード承認書を提出する必要がある

\*最近のダイビングアクティビティを証明できない場合、ダイバーは最寄りのSDIダイブセンターまたは同等のダイブショップへ、アクティブステータスインストラクターと一緒にノンアクティブダイバー/リフレッシュプログラムを完了するよう案内される。

SDIノンアクティブダイバー/リフレッシュプログラムまたは同等のプログラムが正常に完了すると、アクティブステータスインストラクターは次のことを行う必要がある：ジュニアダイバーがSDIアメリカ本部または地域事務所に提出するために、署名済みのアップデート完了レターまたは署名付きログブックエントリーを提供する必要がある。

### 手続き手順 -

SDIアメリカ本部または地域事務局に連絡してください。アップグレード条件に従って適切な文書を提出する。全ての必須アイテムを提供し、新しいCカードを購入した後、Cカードが発行され講習生に送信される。



## 3. スノーケラーコース

### 3.1 イントロダクション

スノーケラーコースは、インストラクターの直接監督なしで、トレーニングと同様の条件で安全にスノーケリングするために必要なスキルを講習生に提供することを目的としている。

### 3.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. トレーニングと同様の条件でのスノーケル
2. SDIオープンウォータースクーバダイバーコースへ進むことができる

### 3.3 指導できるインストラクター

1. アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター
2. アクティブステータスのSDIアシスタントインストラクター
3. 資格のあるSDIノンダイビングスペシャルティインストラクター

### 3.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター、またはアシスタントインストラクター1名に対し講習生最大16名
2. インストラクターまたはアシスタントインストラクターは、アクティブステータスのSDIダイブマスターがアシストする場合は講習生を2名追加することができる：最大18名

オープンウォーター（海、湖、採石場跡、泉、川、河口など）：

1. インストラクターまたはアシスタントインストラクター1名に対し講習生最大10名。ただし、状況に応じてインストラクターの裁量で最大定員を減らすことができる
2. インストラクターまたはアシスタントインストラクターは、アクティブステータスのSDIダイブマスターがアシストする場合は講習生を2名追加することができる：最大12名

### 3.5 講習生参加前条件

18歳以上、保護者の同意がある場合は4歳以上

### 3.6 コース構成と時間

水中実習；このコースはインストラクターの判断で、限定水域(コンファインドウォーター)、オープンウォーター、またはその両方で実施することができる

1. 講習生は、20分間以上のスノーケリングを1回実施しなければならない
2. 全てのスノーケリング実習は日中の明るい時間帯に行わなければならない

コース構成：

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

コース時間：

1. 推奨トレーニング時間は4時間

### 3.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. SDIダイバー登録申請フォームをSDIアメリカ本部に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで講習生を登録することにより、適切なSDI認定を発行しなければならない

または

1. ファシリティを通じてSDIスノーケルカードを発行する

### 3.8 必須器材

基本的なスノーケリング器材：マスク、スノーケル、フィン

### 3.9 学科アウトライン

インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. 息こらえダイビングの種類：

a. スノーケリング：

- i. スノーケリングとは、マスク、フィン、スノーケルを使用して、呼吸をするために頭を上げることなく顔を水中につけたまま、主に水面を泳ぐことである。水面下に短時間潜り、より近くで観察することもできる。

b. フリーダイビング：

- i. フリーダイビングもマスク、フィン、スノーケルを使用するが、主な目的は、水中に潜降してスピアフィッシングや採集、深度や時間の限界に挑戦するなどの活動のために、一定時間息こらえダイビングすることである。

2. 水生環境：

- a. 視界
- b. 光
- c. 音
- d. ヒートロス
- e. 潮汐
- f. カレント
- g. 波
- h. 波浪
- i. 海洋生物によるケガ

3. 物理学と生理学：

- a. 浮力
- b. 圧力
- c. 耳抜きテクニック

- d. 過呼吸だ。
  - i. シャローウォーターブラックアウト
- 4. スノーケリング器材：
  - a. マスク、フィン、スノーケル
  - b. 暴露防止。
  - c. BCD
  - d. ウェイトシステム
- 5. アクセサリー：
  - a. ダイブフラッグ
  - b. レスキューシグナル
  - c. ナイフまたはカuttingデバイス
- 6. 潜水計画：
  - a. ダイバーフィットネスと過剰運動
  - b. バディシステム
  - c. ファーストエイド(応急手当)

### 3.10 スキル達成条件と修了条件

講習生は、以下のスノーケリングスキルを正しく実行できなければならない：

1. 全てのスノーケリング器材を適切に準備、着用、調整する
2. バディチェックを実行し、バディシステムの適切な使用方法を示す
3. 陸地またはボートからのエントリーエキジットを安全に行う
4. 中性浮力を身につける
5. 適切なスノーケルでの呼吸とスノーケルクリア
6. BCD/スノーケルベストの適切な使用
7. 水面ダイブ
8. ハンドシグナルの適切な使用

このコースの修了条件：

1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す

SDIスタンダード&プロシージャーマニュアル  
パート2ダイバースタンダード

---

## 4. スクーバディスカバリー

### 4.1 イントロダクション

このプログラムは、将来スクーバダイビング講習に参加する可能性がある講習生に、アクティブステータスのSDIプロフェッショナルの直接監督のもと、安全な環境でスクーバダイビングを紹介することを目的としている。

### 4.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. アクティブステータスインストラクターの直接監督下でのダイビングができる
2. SDIオープンウォータースクーバダイバーコースへ進むことができる

### 4.3 指導できるインストラクター

1. アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター
2. SDIダイブエクスペリエンスリーダープログラムを修了したアクティブステータスのSDIアシスタントインストラクター(プールまたは限定水域のみ)
3. SDIダイブエクスペリエンスリーダープログラムを修了したアクティブステータスのSDIダイブマスター(プールのみ)

### 4.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

プール：

1. 認定SDIプロフェッショナル1名に対し講習生は最大6名、またはアクティブステータスのアシスタントがいる場合はSDIオープンウォーターインストラクター1名に対し最大8名。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. 認定SDIプロフェッショナルに対し講習生は最大4名、またはアクティブステータスのアシスタントがいる場合はSDIオープンウォーターインストラクター1名に対し最大6名。認定SDIプロフェッショナルはコンディションに応じてこの人数を減らさなければならない。本セクション末尾の「人数比に影響を与える環境要因」を参照のこと。

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など) :

1. SDIオープンウォーターインストラクター1名に対し講習生は最大4名、またはアクティブステータスのアシスタントがいる場合はSDIオープンウォーターインストラクター1名に対し最大6名\*。インストラクターはコンディションに応じてこの人数を減らさなければならない。本セクション末尾の「人数比に影響を与える環境要因」を参照のこと。
2. オープンウォーターダイビングではSDIオープンウォーターインストラクター1名に対し15歳未満の講習生は最大2名。インストラクターはコンディションに応じてこの人数を減らさなければならない。本セクション末尾の「人数比に影響を与える環境要因」を参照のこと。

\*インストラクターがダイバーと一緒に浮上した場合は、アシスタントは残りのダイバー全員と一緒に直ちに安全な浮上をしなければならない。

### 人数比に影響を与える環境要因

1. ダイバーとプロフェッショナルの最大人数比は、下記に示す理想的なコンディションに基づいて設定されている：
  - a. ダイバー全員を完全に見渡すことができる
  - b. 波浪が最小限で穏やか
  - c. プロフェッショナルがすべてのダイバーを見ることができる環境特性
  - d. カレント/流れがない
2. 人数比の縮小は、以下の要因によって判断される：
  - a. 透視度が約5m(16ft)以下である；ダイビング中、各ダイバーの全体を常に確認できること。
  - b. 視界が遮られたり、ダイバーが隠れてしまったりする環境特性
  - c. 強いカレント/流れ、または波浪
3. 人数比の縮小を必要とするその他の要因：
  - a. ボートからのダイビング
  - b. エントリー時とエグジット時の水面移動が長い
  - c. 大人数のダイバーグループ - トレーニングと関係なく

## 4.5 講習生参加前条件

1. 18歳以上、保護者の同意がある場合は10歳以上
2. 余裕がある適切な泳カスキルを示す

## 4.6 コース構成と時間

**プールまたは限定水域(コンファインドウォーター) :**

1. 講習生はオープンウォーターダイビングの前に、30分以上のプールまたは限定水域(コンファインドウォーター)トレーニングを修了しなければならない。
2. 全ての限定水域(コンファインドウォーター)トレーニングは日中の明るい時間帯に行うか、または日中の明るい状況を想定して行わなければならない。

**オープンウォーター(オプション) :**

1. トレーニングダイビングは深度9m(30ft)以内
2. 全てのダイビングは日中の明るい時間帯に行うか、または日中の明るい状況を想定して行わなければならない。
3. インストラクターはオープンウォーターダイビング実施中に、水中カメラや水中ビデオを携帯してはならない。

**コース構成 :**

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターや認定SDIプロフェッショナルがコースを構成することができる

**コース時間**

1. 推奨トレーニング時間は2時間

## 4.7 事務手続き

**事務手続き項目 :**

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する :
  - a. SDIスクーバディスカバリーパンフレットまたは
  - b. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - c. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

**コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること :**



1. SDI講習生登録申請フォームの記入
2. SDIエクスペリエンスカード発行

## 4.8 トレーニング教材

### 必要な資料

1. SDIスクーバディスカバリーズレートまたはSDIスクーバディスカバリーeラーニング

### オプション教材：

1. SDIスクーバディスカバリーパンフレット

## 4.9 必須器材

本マニュアルのセクション2に記載されたオープンウォータースクーバ器材。例外として、ダイブコンピュータは必須ではないが、深度計は必須である。

## 4.10 学科アウトライン

参加者がスクーバディスカバリーeラーニングを修了していない場合、インストラクターはSDIスクーバディスカバリーズレートを使用しなければならない。インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. 水生環境：
  - a. 海洋環境
  - b. ローカルダイブサイトで見ることが出来る海洋生物
2. 物理学と生理学：
  - a. 浮力
  - b. 圧力
  - c. ガススペース：
    - i. 耳抜きテクニック
    - ii. 肺の過膨張障害
  - d. 水中で呼吸をし続けるべき理由
3. スクーバダイビング器材セッティング：
  - a. マスク、フィン、スノーケル

- b. 保護スーツ：
  - i. ウェットスーツ
- c. 浮力補償装置（BCD）。
- d. レギュレーター：
  - i. プライマリレギュレーター
  - ii. オルタネイトエアソース
- e. シリンダー
- f. ウェイトシステム
- g. 水中計器
  - i. SPG(残圧計)
  - ii. ダイブコンピュータ
  - iii. 深度計
- 4. コミュニケーション
  - a. 手信号。
  - b. バディシステム
  - c. バディとはぐれた場合
- 5. SDIオープンウォータースクーバダイバーコースの受講

#### **4.11 スキル達成条件と修了条件**

講習生は、以下のスキルを限定水域(コンファインドウォーター)にて正しく実行できなければならない：  
：

1. 適正ウェイトでのウェイトシステム調整
2. 潜水前のセルフチェックとバディチェック
3. 水面でのウェイト脱着
4. 耳抜き
5. 水中でのマスククリア；ハーフ、フル
6. BCDの使用法：
  - a. 水面での給気(オーラル/パワー)と排気
  - b. 水中での中圧インフレーターを使用した給気と排気

7. 浮力コントロール :

- a. コントロール潜降
- b. コントロール浮上

8. レギュレーターの使用 :

- a. 水面での呼吸、クリア、リカバリー
- b. 水中での呼吸、クリア、リカバリー

9. 水中スイム ; 適切なフィンキック

10. ダイブコンピュータの使用 ; ダイバーがコンピュータを装着している場合は、その使用と読み取り。

11. 残圧計の使用

12. コミュニケーション

- a. 手信号。
- b. バディシステム
- c. バディとはぐれた場合

**このコースの修了条件 :**

潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す

## 5. フューチャーバディ

### 5.1 イントロダクション

このプログラムは、8～12歳の子供たちに、アクティブステータスのSDIインストラクターの直接監督のもと、安全な環境でスクーバダイビングを紹介することを目的としている。

### 5.2 修了者に与えられる資格

修了後に与えられる資格は特にはない。

### 5.3 指導できるインストラクター

アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター

### 5.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター1名に対し最大4名。認定アシスタントがいる場合は最大6名。インストラクターの裁量でこの人数を減らすことができる

オープンウォーター（海、湖、採石場跡、泉、川、河口など）：

1. 該当なし。

### 5.5 講習生参加前条件

1. 保護者の同意がある場合は8歳以上
2. 余裕がある適切な泳カスキルを示す

### 5.6 コース構成と時間

限定水域（コンファインドウォーター）トレーニング：

1. トレーニングダイビングは深度6m(20ft)以内

2. 1回のダイビングは必須。2回目はオプション
3. 3.全てのダイビングは日中の明るい時間帯に、十分な光の下で行わなければならない

**コース構成：**

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

**コース時間：**

1. 推奨トレーニング時間は4時間

## 5.7 事務手続き

**事務手続き項目：**

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

**コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：**

1. SDI講習生登録申請フォームの記入
2. SDIエクスペリエンスカード発行(オプション)

## 5.8 必須器材

本マニュアルのセクション2に記載されたオープンウォータースクーバ器材。例外として、ダイブコンピュータは必須ではないが、強く推奨される。

## 5.9 学科アウトライン

参加者がスクーバディスカバリーeラーニングを修了していない場合、インストラクターはSDIスクーバディスカバリースレートを使用しなければならない。インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. ダイビングの歴史

2. 水生環境：
  - a. 海洋環境
  - b. ローカルダイブサイトで見ることが出来る海洋生物
3. 物理学と生理学：
  - a. 浮力
  - b. 圧力
  - c. エアスペース
  - d. 耳抜きテクニック
  - e. 肺の過膨張障害
4. 水圧下での呼吸
5. スクーバダイビング器材セッティング：
  - a. マスク、フィン、スノーケル
  - b. 保護スーツ：
    - i. ウェットスーツ
  - c. 浮力補償装置（BCD）。
  - d. レギュレーター：
    - i. プライマリレギュレーター
    - ii. オルタネイトエアソース
  - e. シリンダー
  - f. ウェイトシステム
  - g. 水中計器：
    - i. SPG(残圧計)
    - ii. ダイブコンピュータ
    - iii. 深度計
6. アクセサリー：
  - a. ダイブフラッグ

## 5.10 スキル達成条件と修了条件

以下の必須スキルを最大深度6m(20ft)以内の限定水域(コンファインドウォーター)にておこなうこと。

1. 適正ウエイトでのウエイトシステム調整
2. 潜水前のセルフチェックとバディチェック
3. マスククリア ; ハーフ
4. BCDの使用法 :
  - a. 水面で、中圧インフレーターを使用した給気と排気
5. 浮力コントロール :
  - a. コントロール潜降
  - b. コントロール浮上
6. レギュレーターの使用法 :
7. 水中スイム ; 適切なフィンキック
8. 残圧計の使用
9. 水中でのコミュニケーション

### このコースの修了条件 :

潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す

## 6. スーパーバイズドダイバー

### 6.1 イントロダクション

このコースは、アクティブステータスのダイブプロフェッショナルの直接監督のもと、トレーニングと同様のコンディションでオープンウォーターダイビングを行うために必要なスキルを講習生に指導することを目的としている。

### 6.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. アクティブステータスのダイブプロフェッショナルの直接監督のもと、トレーニングと同様のコンディションで、減圧を必要としない深度12m(40ft)までのダイビングに参加できる。適切な水面サポートを受けることができなければならない。
2. インストラクター1名につきスーパーバイズドダイバー4名以下のグループでダイビングすることができる。
3. SDIオープンウォータースクーバダイバーコースへ進むことができる。スーパーバイズドダイバー認定を取得後12か月以内にオープンウォータースクーバダイバーコースを受講する場合は、スーパーバイズドダイバーアップグレード手順に従うことができる。\*

\*認定条件については、6.12スーパーバイズドダイバーアップグレード手順を参照すること。

### 6.3 指導できるインストラクター

アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター

### 6.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター1名に対し講習生最大8名
2. アクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合は、講習生を2名追加することができる



3. 2名のアクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合、インストラクターが水中で指導できる講習生の最大人数は、12名

#### オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など) :

1. インストラクター1名に対し講習生は最大8名。ただし、状況に応じてインストラクターの裁量で最大定員を減らすことができる。
2. アクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合は、講習生を2名追加することができる
3. 2名のアクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合、インストラクターが水中で指導できる講習生の最大人数は、12名

## 6.5 講習生参加前条件

18歳以上、保護者の同意がある場合は10歳以上

## 6.6 コース構成と時間

### オープンウォーター

1. 生徒は最低2回のオープンウォーター・スクーバダイビングを終了し、各ダイビングで最低15分間水中に留まり、合計40分間以上潜水しなければならない。
2. トレーニングの深さは5~12メートルでなければならないが、最大深度は12メートルを超えてはならない。
3. トレーニングやファンダイブを含め、1日最大3回のスクューバダイビングが可能です。
4. 全てのダイビングは日中の明るい時間帯に行うか、または日中の明るい状況を想定して行わなければならない。
5. ダイビング終了後に講習生はログ付けをしなければならない。また、インストラクターは署名しなければならない
6. インストラクターは、オープンウォーターダイブの実施中、写真やビデオ機材を携帯することはできません。

### コース構成 :

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

### コース時間 :

1. トレーニング時間の目安は15時間。

## 6.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. SDIダイバー登録フォームをSDI本部/地域事務局に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで生徒を登録することにより、適切なSDI認定証を発行する。

## 6.8 必須器材

本マニュアルの第2章に記載されている基本的なオープンウォーター・スクーバ装備。以下の材料が必要である：

1. SDIオープンウォータースクーバダイバー マニュアル  
および関連するSDIナレッジエストブック（またはSDIオープンウォーターダイバー  
オンライントレーニングコース）
2. SDIオープンウォーター・スクーバダイバー・インストラクター・ガイド

以下の資料が入手可能であり、推奨される：

1. SDIログブック。
2. SDI オープンウォータースクーバダイバー ビデオまたはDVD
3. SDI オープンウォータースクーバダイバーパワーポイントプレゼンテーション
4. SDI限定水域(コンファインドウォーター)/海洋実習(オープンウォーター)ティーチングスレート
5. SDIスキルチェックリストスレート

インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

## 6.9 学科アウトライン

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. ダイビングの歴史
2. 水生環境：
  - a. 視界
  - b. 光
  - c. 音
  - d. ヒートロス
  - e. 潮汐
  - f. カレント
  - g. 波
  - h. 波浪
3. 海洋生物によるケガ
4. 物理学と生理学：
  - a. 浮力
  - b. 圧力
  - c. ボイルの法則。
  - d. エアスペース：
    - i. 肺の過膨張障害
    - ii. 耳抜きテクニック
  - e. 圧力下で空気を吸う：
    - i. 減圧症
      1. 反復潜水。
      2. 安全停止。
      3. 緊急減圧。
      4. 減圧は省略：
    - ii. 窒素中毒。
    - iii. 酸素中毒
    - iv. 一酸化炭素中毒。
    - v. 混合ガス。
    - vi. 過呼吸、浅瀬でのブラックアウト。

5. スキューバ装備：

- a. マスク、フィン、スノーケル
- b. 保護スーツ：
  - i. ウェットスーツ
  - ii. ドライスーツ
- c. 浮力補償装置（BCD）。
- d. レギュレーター：
  - i. プライマリレギュレーター
  - ii. オルタネイトエアソース
- e. シリンダー
- f. ウェイトシステム
- g. 水中計器：
  - i. SPG(残圧計)
  - ii. ダイブコンピュータ
  - iii. ダイブウォッチ
  - iv. 深度計
  - v. コンパス
- h. アクセサリー
  - i. ダイブフラッグ
  - ii. レスキューシグナル
  - iii. ナイフ
  - iv. ダイブライト。
  - v. 機材バッグ。
  - vi. ログブック
  - vii. スレートだ。

6. 潜水計画：

- a. ダイバーフィットネスと過剰運動
- b. 新しい、または地元のダイビング環境へのオリエンテーション。
- c. ボートダイビングの手順

- d. バディシステム
- e. ファーストエイド(応急手当)

## 6.10 スキル達成条件と修了条件

講習生は、以下のスキルを正しく実行できなければならない：

1. 水泳の評価（スキューバ・スキルを指導する前に完了している必要があります。）
  - a. マスク、シュノーケル、水泳補助具を使用せず、任意のストロークでノンストップで200メートル泳ぐか、マスク、シュノーケル、フィンを使用してノンストップで300メートル泳ぐ。
  - b. 10分間のサバイバル・スイム／フロート。

注：ダイビングスーツを着用する場合は、水面で自然な浮力となるようウェイト調整が必要。

2. スキューバのスキル
  - a. スキューバシステムの組み立てと分解
  - b. 適正ウェイトでのウェイトシステム調整
  - c. 水面でのウェイト脱着
  - d. 深度でのウェイトシステムの取り外しと交換。 \*
3. 潜水前のセルフチェックとバディチェック
4. 深度のある部分マスクはクリア。
5. 深度ではフルマスククリア。
6. マスクなしで水中で呼吸したり泳いだりすること。
7. BCDの使用法：
  - a. 表層でのインフレーションとデフレーション（口唇／パワー）。
  - b. 深部での膨張と収縮（経口／パワー）。
  - c. 表面での取り外しと交換。
  - d. 深部での取り外しと交換。 \*
8. 浮力コントロール：
  - a. ホバリング。
  - b. コントロール浮上
  - c. コントロール潜降
9. レギュレーターの使用法：

- a. 水面での呼吸、クリア、リカバリー
- b. 水中での呼吸、クリア、リカバリー

10. 水中スイム；適切なフィンキック

11. 出入り口：

- a. 着席したまま入場できる。
- b. ジャイアント・ストライド・エントリー。
- c. 浅瀬の出口。
- d. 深水出口。

12. シュノーケル使用：

- a. 調整だ。
- b. b.整地；ブラスト法。
- c. c.水面でのレギュレーターシュノーケル交換。
- d. d.フル装備で水面シュノーケルスイム。

13. コンピューターの使用：

- a. データを読み、理解する。
- b. コンピュータの機能を理解する。

14. 残圧計の使用

15. 水中通信。

16. 救助のテクニック

- a. 疲れたダイバーの曳航。
- b. けいれん緩和。

17. エア切れの緊急事態：

- a. コントロールされたスイミング上昇。
- b. 代替空気源の使用；コントロールされた上昇をしながら、バディと空気を共有すること。

**\* 限られた水域でのみ実施**

**このコースの修了条件：**

1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す
2. *SDIオープンウォータースクーバダイバー Knowledge Quest*または同等のSDI電子/オンラインラーニングエグザムを十分に完了してください。インスト

ラクターは、SDIオープン・ウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクター・リソースCDに収録されている追加試験を使用することができます。

3. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。

## 6.11 オープンウォーター・グローバル・レフェラル・プロシージャー

### SDI インストラクターから現役 SDI インストラクターへの手続き :

1. SDIインストラクターは、SDIオープンウォータースクーバダイバーコースの学科と限定水域を修了した生徒を、グローバルリファーラルフォームを使って、オープンウォーターの要件を修了するために2人目のSDIインストラクターに紹介します。
2. 講習生が海洋実習を修了した際、担当したSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターは、委託教育フォーム裏側に記載されているスキルリストに署名する。
3. 講習生は、海洋実習担当インストラクターが署名した委託フォームを学科講習および限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング担当SDIインストラクターに提出し、認定カード発行を要請する。
4. SDIオープンウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクターは、SDI生徒登録用紙に両インストラクターの氏名を記入し、SDI本部に送付する。ISCP(自店内カード発行システム)を備える場合は直接発行することができる。

### SDI インストラクターからアクティブ・インストラクターへの手続き :

1. SDIのオープンウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクターは、オープンウォーター・コースの学科講習と限定水域講習を修了した生徒を、グローバル・リファーラル・フォームを使って、オープンウォーターの要件を満たすために、どのダイビングトレーニング機関の他のアクティブなインストラクターにも派遣する。
2. 講習生が海洋実習を修了した際、担当したSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターは、委託教育フォーム裏側に記載されているスキルリストに署名する。
3. 講習生は、海洋実習担当インストラクターが署名した委託フォームを学科講習および限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング担当SDIインストラクターに提出し、認定カード発行を要請する。
4. SDI Confined Waterのインストラクターは、SDI Student RegistrationFormにインストラクター2名の氏名を記入し、SDI本部に送付することで、インストラクター2名の氏名が記載された認定カードが発行されます。
5. ISCP(自店内カード発行システム)を備える場合は直接発行することができる。

## 6.12 スーパーバイザーからオープンウォーター・スクーバ・ダイバーへのアップグレード手順

**SDIスーパーバイザー・ダイバーがSDIオープンウォーター・スクーバ・ダイバーにアップグレードするためには、以下の条件を満たす必要があります：**

1. 受講生は、過去12ヶ月以内にSDIスーパーバイザー・ダイバーとして認定されていること。
2. 追加のアカデミック・レビューおよび/または監禁セッションは必要ではないが、講師の裁量で追加することができる。
3. 2回以上の海洋実習ダイビング(テクニック習得のためにインストラクターが必要であると判断した場合は、増やすことができる)



## 7. オープンウォータースクーバダイバー

### 7.1 イントロダクション

この認定コースは、インストラクターの直接監督なしに、トレーニングと同様のコンディションでオープンウォーターダイブを行うために必要なスキルを講習生に指導することを目的としている。

### 7.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. トレーニングを受けた環境と同様の海洋で最大深度18m(60ft)までのダイビングをすることができる。
2. 同レベル以上の認定ダイバーとダイビングを実施します。
3. 減圧停止を必要としないダイビングを実施してください。
4. アドバンスド・アドベンチャー・ダイバー・プログラム、個々のSDIスペシャリティー、またはSDIアドバンスド・ダイバー育成プログラムに登録する。

### 7.3 指導できるインストラクター

アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター

### 7.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター1名に対し講習生最大8名
2. アクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合は、講習生を2名追加することができる
3. 2名のアクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合、インストラクターが水中で指導できる講習生の最大人数は、12名

オープンウォーター（海、湖、採石場跡、泉、川、河口など）：

1. インストラクター1人につき生徒は最大8人まで。状況に応じてこの人数を減らすことはインストラクターの裁量に任されている。
2. アクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合は、講習生を2名追加することができる
3. 2名のアクティブステータスのアシスタントインストラクターまたはダイブマスターがアシストする場合、インストラクターが水中で指導できる講習生の最大人数は、12名

## 7.5 講習生参加前条件

1. 18歳以上、10歳以上17歳未満は保護者の同意書が必要。
2. 10歳から14歳までの生徒は、以下の条件を満たす場合、SDIジュニア・オープン・ウォーター・スクーバ・ダイバー資格を取得することができます。
3. SDIジュニアオープンウォーターダイバーが15歳に達した場合、ジュニアオープンウォーターアップグレードフォームに記入し、ワールドHQに提出することで、SDIオープンウォータースクーバダイバー認定にアップグレードすることができます。

## 7.6 コース構成と時間

### オープンウォーター・エグゼキューション

1. 生徒は最低4回のオープンウォーター・スクーバダイビングを終了し、1回のダイビングで最低15分間、合計80分間水中にいないなければならない。
2. トレーニングの深さは5メートルから18メートルの間でなければならない。
3. スキューバダイビングは1日3本まで。
4. 全てのダイビングは日中の明るい時間帯に行うか、または日中の明るい状況を想定して行わなければならない。
5. ダイビングが完了したら、生徒はログブックに記入し、インストラクターは完了したダイビングにサインをしなければならない
6. インストラクターは、オープンウォーターダイブの実施中、写真やビデオ機材を携帯することはできません。

### コース構成：

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

### コース時間

1. トレーニング時間の目安は20時間。

## 7.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. SDIダイバー登録フォームをSDI本部に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで生徒を登録することにより、適切なSDI認定証を発行する。

## 7.8 必須器材

本マニュアルの第2章に記載されている基本的なオープンウォーター・スクーバ装備。以下の材料が必要である：

1. SDIオープンウォータースクーバダイバーマニュアルとSDIナレッジエストブック（またはSDIオープンウォーターダイバーオンライントレーニングコース）。
2. SDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターガイド。

利用可能な推奨教材：

1. SDIログブック。
2. SDIオープンウォーター・スクーバダイバー・ビデオまたはDVD。
3. SDIオープンウォーター・スクーバダイバー・パワーポイントプレゼンテーション。
4. SDIコンファインドウォーター/オープンウォーター・ティーチングスレート。
5. SDI スキルチェックオフスレート。

インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

## 7.9 学科アウトライン

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. ダイビングの歴史
2. 水生環境：
  - a. 視界
  - b. 光
  - c. 音
  - d. ヒートロス
  - e. 潮汐
  - f. カレント
  - g. 波
  - h. 波浪
3. 海洋生物によるケガ
4. 物理学と生理学：
  - a. 浮力
  - b. 圧力
  - c. ボイルの法則。
  - d. エアスペース：
    - i. 肺の過膨張障害
    - ii. 耳抜きテクニック
  - e. 圧力下で空気を吸う：
    - i. 減圧症
      1. 反復潜水。
      2. 安全停止。
      3. 緊急減圧。
      4. 減圧は省略：
    - ii. 窒素中毒。
    - iii. 酸素中毒
    - iv. 一酸化炭素中毒。
    - v. 混合ガス。
    - vi. 過呼吸、浅瀬でのブラックアウト。

5. スキューバ装備：

- a. マスク、フィン、スノーケル
- b. 保護スーツ：
  - i. ウェットスーツ
  - ii. ドライスーツ
- c. 浮力補償装置（BCD）。
- d. レギュレーター：
  - i. プライマリレギュレーター
  - ii. オルタネイトエアソース
- e. シリンダー
- f. ウェイトシステム
- g. 水中計器：
  - i. SPG(残圧計)
  - ii. ダイブコンピュータ
  - iii. ダイブウォッチ
  - iv. 深度計
  - v. コンパス
- h. アクセサリー
  - i. ダイブフラッグ
  - ii. レスキューシグナル
  - iii. ナイフ
  - iv. ダイブライト。
  - v. 機材バッグ。
  - vi. ログブック
  - vii. スレートだ。

6. 潜水計画：

- a. ダイバーフィットネスと過剰運動
- b. 新しい、または地元のダイビング環境へのオリエンテーション。
- c. ボートダイビングの手順

- d. バディシステム
- e. ファーストエイド(応急手当)

7. 水中ナビゲーション

- a. コンパス
- b. 自然だ。

## 7.10 スキル達成条件と修了条件

講習生は、以下のスキルを正しく実行できなければならない：

1. 水泳の評価（スキューバ・スキルを指導する前に完了している必要があります：）

- a. マスク、シュノーケル、水泳補助具を使用せず、任意のストロークでノンストップで200メートル泳ぐか、マスク、シュノーケル、フィンを使用してノンストップで300メートル泳ぐ。
- b. 10分間のサバイバル・スイム／フロート。

注：ダイビングスーツを着用する場合は、水面で自然な浮力となるようウェイト調整が必要。

2. スキューバのスキル

- a. スキューバシステムの組み立てと分解
- b. 適正ウェイトでのウェイトシステム調整
- c. 水面でのウェイト脱着
- d. 深度でのウェイトシステムの取り外しと交換。

3. 潜水前のセルフチェックとバディチェック

- 4. 深度のある部分マスクはクリア。
- 5. 深度ではフルマスククリア。
- 6. マスクなしで水中で呼吸したり泳いだりすること。

7. BCDの使用法：

- a. 表層でのインフレーションとデフレーション（口唇／パワー）。
- b. 深部での膨張と収縮（経口／パワー）。
- c. 表面での取り外しと交換。
- d. 深部での取り外しと交換。

8. 浮力コントロール：

- a. ホバリング。

b. コントロール浮上

c. コントロール潜降

9. レギュレーターの使用法 :

a. 水面での呼吸、クリア、リカバリー

b. 水中での呼吸、クリア、リカバリー

10. 水中スイム ; 適切なフィンキック

11. 出入り口 :

a. 着席したまま入場できる。

b. ジャイアント・ストライド・エントリー。

c. 浅瀬の出口。

d. 深水出口。

12. シュノーケル使用 :

a. 調整だ。

b. b.整地 ; プラスト法。

c. c.水面でのレギュレーターシュノーケル交換。

d. d.フル装備で水面シュノーケルスイム。

13. コンピューターの使用 :

a. データを読み、理解する。

b. コンピューターの機能を理解する。

14. 残圧計の使用

15. 水中通信。

16. 救助のテクニック

a. 疲れたダイバーの曳航。

b. けいれん緩和。

17. エア切れの緊急事態 :

a. コントロールされたスイミング上昇。

b. 代替空気源の使用 ; コントロールされた上昇をしながら、バディと空気を共有すること。

18. 水中ナビゲーション

**このコースの修了条件：**

1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ確かな判断力があることを示す
2. *SDIオープンウォータースクーバダイバー Knowledge*  
Questまたは同等のSDI電子/オンラインラーニングエグザムを十分に完了してください。インストラクターは、SDIオープン・ウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクター・リソースCDに収録されている追加試験を使用することができます。
3. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。

**7.11 オープンウォーター・グローバル・レフェラル・プロシージャー****SDI インストラクターから現役 SDI インストラクターへの手続き：**

1. SDIインストラクターは、SDIオープンウォータースクーバダイバーコースの学科と限定水域を修了した生徒を、グローバルリファーラルフォームを使って、オープンウォーターの要件を修了するために2人目のSDIインストラクターに紹介します。
2. 講習生が海洋実習を修了した際、担当したSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターは、委託教育フォーム裏側に記載されているスキルリストに署名する。
3. 講習生は、海洋実習担当インストラクターが署名した委託フォームを学科講習および限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング担当SDIインストラクターに提出し、認定カード発行を要請する。
4. 提出を受けたSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターは、限定水域(コンファインドウォーター)トレーニングと海洋実習を担当した2名のインストラクターの署名がなされた委託フォームをSDI JAPANに提出し、資格発行の手続きをする。ISCP(自店内カード発行システム)を備える場合は直接発行することができる。

**SDI インストラクターからアクティブ・インストラクターへの手続き：**

1. SDIのオープンウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクターは、オープンウォーター・コースの学科講習と限定水域講習を修了した生徒を、グローバル・リファーラル・フォームを使って、オープンウォーターの要件を満たすために、どのダイビングトレーニング機関の他のアクティブなインストラクターにも派遣する。
2. 講習生が海洋実習を修了した際、担当したSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターは、委託教育フォーム裏側に記載されているスキルリストに署名する。
3. 講習生は、海洋実習担当インストラクターが署名した委託フォームを学科講習および限定水域(コンファインドウォーター)トレーニング担当SDIインストラクターに提出し、認定カード発行を要請する。



4. SDI Confined Waterのインストラクターは、*SDI Student Registration Form*にインストラクター2名の氏名を記入し、SDI本部に送付することで、インストラクター2名の氏名が記載された認定カードが発行されます。
5. ISCP(自店内カード発行システム)を備える場合は直接発行することができる。

**どのインストラクターでも、SDIインストラクターになることができます：**

1. SDIインストラクターは講習生にダイブコンピューターの使用方法を教えること。海洋実習中、講習生はパーソナルダイブコンピューターを着用しなければならない。
2. SDIインストラクターは、生徒がSDIオープンウォーター・スクーバ・ダイバー・スタンダードで要求されるすべてのスキルを完了していることを確認しなければなりません。
3. SDIオープンウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクターは、SDI生徒登録用紙に記入し、SDI本部に送付する。
4. SDIインストラクターは、オンライン登録システム、または店舗でのカード印刷システム（利用可能な場合）を使用することもできます。
5. SDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターは講習生のトレーニングレコードとリファラール(委託)フォームのコピーを一緒にして保管すること。
6. SDIは、生徒がユニバーサル紹介書を持参してきた場合、SDI認定カードを発行するだけでなく、ユニバーサル紹介書に署名して生徒に返し、元のインストラクターのところに戻ってもらうことを推奨しています。

## 8. ノンアクティブダイバープログラム / リフレッシュャー

### 8.1 イントロダクション

ノンアクティブダイバープログラムの目的は、資格はあるが、長い間ダイビングしていなかったノンアクティブダイバーが知識とスキルを再確認するための指導をすることである。SDIは、このプログラムをインストラクター、アシスタントインストラクター、ダイブマスター、リゾート、ダイビング業者が、ダイビングスキルやキャリアがよくわからないダイバーに対して実施するよう奨励する。また、このプログラムは、複数のコースを連続して指導する場合に、講習生のモチベーション維持を目的として利用することができる。

### 8.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. SDIアドバンスド・アドベンチャー・ダイバー、SDIスペシャルティ・コース、またはSDIアドバンスド・ダイバー育成プログラムのいずれかに登録する。
2. インストラクターの直接指導を受けずに潜ること。

### 8.3 指導できるインストラクター

1. アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター
2. 現役のSDIアシスタントインストラクター。
3. ダイブエクスペリエンス・リーダー・プログラムを修了したSDIダイブマスター。

### 8.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクターまたはアシスタント・インストラクター1名につき最大10名。

オープンウォーター（海、湖、採石場跡、泉、川、河口など）：

1. インストラクター1人につき生徒は最大8人まで。状況に応じてこの人数を減らすことはインストラクターの裁量に任されている。

## 8.5 講習生参加前条件

SDIノンアクティブダイバー/リフレッシュャーコースに参加するには、個人が以下を行う必要があります。

1. SDIオープンウォータースクーバダイバー資格または同等の資格を提示

## 8.6 コース構成と時間

水の執行：

1. トレーニングの深さは18メートルを超えてはならない。
2. 1ダイブ必須（限定水域、オープンウォーター、またはその両方）。
3. すべてのダイビングは、適切な照明条件下、または日照条件を模擬した条件下で行わなければならない。

コース構成：

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

コース時間：

1. 推奨トレーニング時間は4時間

## 8.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

インストラクターは、コース修了後、インアクティブ・ダイバー・リフレッシュカードを発行することができる。カードが発行されない場合、コースを実施したインストラクターまたはアシスタント・インストラクターは、コース終了日を確認するために、ダイバーのログブックのページにサインをすることができます。

## 8.8 必須器材

本マニュアルのセクション2に記載されたオープンウォータースクーバ器材。例外として、ダイブコンピューターは必須ではありませんが、強くお勧めします。

オプションの材料：

1. SDIイナクティブダイバーeラーニング。

## 8.9 スキル達成条件と修了条件

1回の中トレニングダイブが義務付けられていますが、インストラクターまたはアシスタントインストラクターは、ダイビングを完了するために必要なスキルについて、その裁量で判断することができます。SDIは次のようなアウトラインを提供している：

1. プランダイブ
  - a. 耳抜きテクニック
  - b. 通信信号。
  - c. 肺の過膨張障害
  - d. ダイブコンピューターのレビュー
2. スキューバシステムの組み立て。
3. ウェイト調整
4. マスクの曇りを取る。
5. ドンスキューバシステム。
6. 現場の状況に応じた適切なエントリー。
7. コントロールされた降下。
8. 使用する場合は、コンピューターチェック。
9. レギュレーターのカリアリング
10. レギュレーターのリバース。
11. マスククリア。
12. フィン使用。
13. 浮力コントロール、ホバリング。
14. 水中ツアー。
15. コンピューターのチェック

- 16. コンピューター制御による上昇。
- 17. 出口だ。
- 18. スキューバシステムを分解する。
- 19. ログ付け
- 20. エア・シェアリング・アセント。

**このコースの修了条件：**

- 1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す
- 2. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す

## 9. アコンプリッシュトウダイバープログラム(Accomplished Diver Program)

### 9.1 イントロダクション

SDIアコンプリッシュトウダイバープログラムは、スクーバダイバー育成機関や軍隊などでスクーバダイビング資格を取得し長い間ダイビングをしているが、認定レベルの資格を取得していない人を対象にSDIオープンウォータースクーバダイバー資格を取得できるようにするプログラムである。このコースは、その他の講習へと繋がる連続的な教育を行うために使用してよい。また、このプログラムは、複数のコースを連続して指導する場合に、講習生のモチベーション維持を目的として利用することができる。

### 9.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. SDIアドバンスド・アドベンチャー・ダイバー・プログラム、SDIスペシャルティ・コース、SDIアドバンスド・ダイバー育成プログラムのいずれかに登録する。
2. インストラクターの直接指導を受けずに潜ること。

### 9.3 指導できるインストラクター

アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター

### 9.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター1名につき最大10名まで。

オープンウォーター（海、湖、採石場、泉、川、河口）：

1. インストラクター1人につき生徒は最大8人まで。状況に応じてこの人数を減らすことはインストラクターの裁量に任されている。

## 9.5 講習生参加前条件

1. SDI Acquirelish ダイバーコースに参加するには、個人は以下を行う必要があります。
  - a. 認定教育機関で取得したジュニアオープンウォータースクーバダイバーまたはオープンウォータースクーバダイバーの認定資格の提示、軍隊で発行された資格の提示、または50時間以上のダイビング経験の証明書を提出しなければならない。

## 9.6 コース構成と時間

### アカデミックだ：

1. パーソナルダイブコンピューター(PDC)の使用法を含む基礎的なオープンウォーターの知識をカバーする学科講習を修了する。認定を受けたことのないダイバーについては、SDIオープンウォータースクーバダイバーマニュアルまたはオンラインオープンウォータースクーバダイバーコースの修了がこのレビューに含まれていなければなりません。

### コース構成：

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

### コース時間：

1. 推奨されるトレーニング時間は、4～8時間のオープンウォーター・エクセキューション。
2. 潜水は1回とし、潜水深度は18メートル以内とする。

## 9.7 事務手続き

### 事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート
5. 学生の現在の資格証明書のコピーを保管すること。

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. SDIダイバー登録フォームをSDIに提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで生徒を登録することにより、適切なSDI認定証を発行する、

## 9.8 必須器材

本マニュアルのセクション2に記載されたオープンウォータースクーバ器材。パーソナル・ダイブ・コンピューター（PDC）が必要。

## 9.9 スキル達成条件と修了条件

水中でのトレーニングダイブは1回義務付けられているが、インストラクターは、ダイビングを完了するために必要なスキルについて、その裁量で判断することができる。SDIは次のようなアウトラインを提供している：

1. プランダイブ
  - a. 耳抜きテクニック
  - b. 通信信号。
  - c. 肺の過膨張障害
2. ダイブコンピューターのレビュー
3. スキューバシステムの組み立て。
4. ウェイト調整
5. マスクの曇りを取る。
6. ドンスキューバシステム。
7. 現場の状況に応じた適切なエントリー。
8. コントロールされた降下。
9. コンピューターのチェック
10. レギュレーターのカリアリング
11. レギュレーターの回復。
12. マスククリア。
13. フィン使用。
14. 浮力コントロール、ホバリング。
15. 水中ツアー。
16. コンピューターのチェック



17. コントロールされた上昇。
18. 出口だ。
19. スキューバシステムを分解する。
20. ログ付け

**このコースの修了条件：**

1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す
2. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。

## 10. アドバンスダイバー

### 10.1 イントロダクション

SDIアドバンスダイバー育成プログラムは、真の「アドバンスダイバー」を育成するためのプログラムである。以前の規定では、ダイバーがオープンウォーターダイバーコースを終えてすぐに、アドバンスダイバーコースに参加することができていたため、合計9回のダイビングをしたダイバーは、アドバンスダイバー資格を取得することができた。

しかし、改正後のSDIアドバンスダイバーコースでは、オープンウォーターダイバー資格を取得したダイバーが、さらに4つのスペシャルティコースを修了するとともに、25回以上のダイビングログが必要である。SDIは、この過程を通じて、真の「アドバンスダイバー」を輩出している。

### 10.2 指導できるインストラクター

SDI、TDI、ERDIの現役インストラクターまたはアシスタント・インストラクターで、選択した専門分野を教える資格を有する。

### 10.3 卒業要件

SDIアドバンスダイバー認定要件:

1. SDI、TDIまたはERDIスペシャルティコースまたは同等ランクコースの中から4コースを修了する。(ダイビングを伴わないスペシャルティは1つまでアドバンスダイバーへのクレジットとして認められる) ナイトロックスはダイビングスペシャルティとして数える。
2. 25回のログダイブを証明するもの。
3. インストラクターは、SDIダイバー登録フォームをSDI本部または地域事務局に提出するか、SDI/TDI/ERDIのウェブサイトの会員エリアからオンラインで生徒を登録することにより、SDIアドバンスダイバー認定証を発行しなければならない。
4. SDIジュニア・アドバンスの条件には、上記の条件が含まれる。ただし、4つの専門コースを受講した場合は、年齢によって認められる。

## 11. レスキューダイバー

### 11.1 イントロダクション

レスキュー認定コースは、ダイバーレスキューを効果的に行い、必要な応急処置の補助や管理を行うための知識と必要なスキルを身につけることを目的としています。

### 11.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は以下のコースに参加することができる：

1. 遭難したダイバーの救助ができる。
2. 以下のコースに進む資格があります：
  - a. SDIマスター・ダイバー・プログラム。
  - b. SDIダイブマスターコース。

### 11.3 指導できるインストラクター

アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター

### 11.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター1名に対し講習生最大10名
2. インストラクターは、アシスタントインストラクターまたはダイブマスターのサポートにより、2名の生徒を追加することができます。アシスタントを追加することはできるが、生徒を追加することはできない。

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など)：

1. インストラクター1人につき生徒は最大8人まで。状況に応じてこの人数を減らすことはインストラクターの裁量に任されている。

2. インストラクターは、アクティブなアシスタントインストラクターまたはダイブマスターのサポートがあれば、さらに2名の生徒を追加することができます。アシスタントを追加することはできるが、生徒を追加することはできない。

## 11.5 講習生参加前条件

1. 18歳以上、保護者の同意がある場合は10歳以上
2. First Response Adult and Child Emergency Care Provider および Oxygen Administration Provider (where local law permits)の資格を現在取得していること、または同等の資格を取得していることを証明する書類を提出すること。\*
3. SDIアドバンスド・アドベンチャー・ダイバー認定証、SDIジュニア・アドバンスド・アドベンチャー認定証、または同等の認定証、またはオープン・ウォーター・ダイバー認定証と15回のオープン・ウォーター・ダイブのログを証明するものを提出すること。
4. 15歳未満のダイバーは、ジュニアレスキューダイバー認定を取得できます。ジュニアの生徒は、親、保護者、または現役のダイビングプロフェッショナルの直接指導のもとでトレーニングとダイビングを行うこと。

\*注：ファースト・レスポンス・コースは、資格のあるインストラクターによってSDIレスキュー・ダイバー・コースと組み合わせることができる。

## 11.6 コース構成と時間

コース構成：

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

コース時間：

1. トレーニング時間の目安は12時間。
2. 推奨される12時間のうち、8時間はオープンウォーターコンディションで行うこと。

## 11.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える

4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：

- a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
- b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. SDIダイバー登録申請フォームをSDIアメリカ本部に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで講習生を登録することにより、適切なSDI認定を発行しなければならない

## 11.8 トレーニング教材

### 必要な資料

1. SDIレスキューダイバーマニュアル（またはSDIレスキューダイバーオンライントレーニングコース）。
2. SDIレスキューダイバーK.Q.レビュー。
3. SDIレスキューダイバーインストラクターガイド。

### オプションの素材：

1. SDIレスキューダイバーパワーポイントプレゼンテーション。
2. SDIレスキュー・ダイバー・スレート。
3. SDIレスキューダイバーインストラクタースレート。

## 11.9 必須器材

切断器材(カuttingデバイス)を含む、基本的なオープンウォータースクーバ器材

## 11.10 学科アウトライン

このコースでは、SDIレスキューダイバーマニュアルを使用する。インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. ダイビング事故の予防と原因：
  - a. ストレスと心理的要因、すなわち自己と他者のパニック症候群。
  - b. フィジカル・コンディショニング。
  - c. 器材
  - d. 水面溺水症候群。

2. ダイビング・ライフセービング
  - a. セルフレスキューだ。
  - b. ダイバーのアシスト
  - c. 水面および水中での救助。
  - d. 輸送の種類
  - e. 水中人工呼吸。
  - f. ボートと岸からの脱出テクニック。
  - g. ダイバーの応急処置
  - h. 酸素（O<sub>2</sub>）投与の見直し。
3. 高気圧損傷と管理：
  - a. 情報収集。
  - b. 高気圧室へのアクセス。
4. 事故管理：
  - a. 緊急輸送/援助へのアクセス。
  - b. 事故報告。
  - c. 法的責任と関連法規上の考慮事項

## 11.11 スキル達成条件と修了条件

インストラクターは、以下のすべてのスキルを教え、評価することが求められる：

1. 外見から次の状況を判断し適切な対応をとる
  - a. 呼吸困難。
  - b. 疲れやすい。
  - c. 足がつる。
  - d. 初期のパニック症状。
2. 意識を失ったスクーバ・ダイバーを、水深約6メートルから水面に浮上させる。
3. 浮上したら、意識不明のダイバーを岸まで50メートル、またはボートまで搬送し、水中でレスキュー呼吸のシミュレーションを行う。
4. 岸またはボートに到着したら、補助者1名の助けを借りて、ダイバーを水から上げる。

注意：上記のスキルの多くは複雑であるため、インストラクターはSDIレスキューダイバーコースのオープンウォーターエクササイズスレートに記載されているスキル開発に従って、必要なスキルを小さなステップに分割して学習することをお勧めします。

**このコースの修了条件：**

1. ダイビングの緊急事態の計画と実行に関して、成熟した健全な判断を示す。
2. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。
3. SDIレスキューダイバー・ナレッジテストまたはeラーニングを十分に修了すること。

## 12. マスタースクーバダイバー(Master Diver)

### 12.1 イントロダクション

SDIマスターダイバーデベロップメントプログラムは、真の「マスターダイバー」を輩出するためのプログラムである。このプログラムは、オープンウォーターダイバー資格を取得したダイバーがさらに4つのスペシャルティコースとSDI

レスキューダイバーコース(同等ランク)を修了し、50回以上のダイビングを経験しなければならない。SDIは、これが達成されると、ダイバーは真のマスタースクーバダイバーになると考えています。

### 12.2 指導できるインストラクター

SDI、TDI、またはERDIインストラクターとして活躍し、専門分野を教える資格を有する者。

### 12.3 卒業要件

マスター・スクーバ・ダイバー認定手続き：

1. SDI、TDIまたはERDIスペシャルティコースまたは同等ランクコースの中から4コースを修了する。(ダイビングを伴わないスペシャルティは1つまでマスタースクーバダイバーへのクレジットとして認められる) ナイトロックスはダイビングスペシャルティとして数える。
2. ダイブログ50回以上
3. SDIレスキューダイバーコースを修了していること。
4. 前述の条件を満たしているかインストラクターが確認した後、SDIダイバー登録フォームをSDI本部または地域事務局に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアを通じてオンラインで講習生を登録することにより、SDI認定を発行すること。

\*

注：18歳未満のダイバーは、4つのスペシャルティ・コースを修了していることを条件に、上記の条件を満たす必要がある。



## 13. シャローウォータースクーバダイバー

### 13.1 イントロダクション

このエントリーレベル認定コースは、インストラクターの直接監督なしに、シャロースクーバシステムを使い、トレーニングと同様のコンディションで安全にオープンウォーターダイビングを行うために必要なスキルを講習生に指導することを目的としている。このコースは浅水スクーバシステムに特化したものであり、従来のスクーバダイビング器材の使い方を講習するものではありません。従って、このプログラム中、参加者が従来のスクーバダイビング器材を使用することは固く禁じられている。

### 13.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. 浅水スクーバシステムを使用し、最大水深9mまで、トレーニングに近いコンディションでオープンウォーターダイブを行う。

### 13.3 指導できるインストラクター

シャローウォーターダイバーコースを教える資格を持ち、トレーニングのためにシャローウォータースクーバシステムを持っているSDIインストラクター。

### 13.4 講習生とインストラクターの人数比

アカデミックだ：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

閉鎖水域（プールのような状態）：

1. インストラクター1名につき最大10名まで。
2. インストラクターは、アクティブなアシスタントインストラクターまたはダイブマスターのサポートがあれば、さらに2名の生徒を追加することができます。
3. 1人のインストラクターが水中で指導できる生徒の人数は、2人のアシスタントインストラクターまたはダイブマスターの助けを借りて、合計14人です。

オープンウォーター（海、湖、採石場跡、泉、川、河口など）：

1. インストラクター1人につき生徒は最大8人まで。状況に応じてこの人数を減らすことはインストラクターの裁量に任されている。

2. インストラクターは、アクティブなアシスタントインストラクターまたはダイブマスターのサポートがあれば、さらに2名の生徒を追加することができます。
3. 1人のインストラクターが水中で指導できる生徒の人数は、2人のアシスタントインストラクターまたはダイブマスターの助けを借りて、合計12人です。

### 13.5 講習生参加前条件

1. 18歳以上(保護者の同意がある場合は10歳~17歳)
2. 10歳から14歳までの生徒は、以下の条件を満たす場合、SDIジュニア浅瀬スクーバダイバー認定を取得することができます。生徒は、親、保護者、または現役の指導者レベルのダイバーの直接指導のもとでトレーニングとダイビングを行うこと。
3. ジュニア浅瀬スクーバダイバーが15歳に達すると、SDI浅瀬スクーバダイバー認定にアップグレードすることができます。

### 13.6 コース構成と時間

#### オープンウォーター・エグゼキューション

1. 生徒は、温暖で透明度の高い穏やかな海域で、最大水深9メートルのオープンウォーター・ダイブを2回修了しなければならない。
2. 1回のダイビングで最低20分間、合計40分間水中にとどまること。
3. トレーニングの深さは4.5~9メートル（15~30フィート）でなければならない。
4. トレーニングのためのオープンウォーター・ダイブは1日3本まで。
5. 全てのダイビングは日中の明るい時間帯に行うか、または日中の明るい状況を想定して行わなければならない。
6. ダイビング修了後に講習生はログ付けをしなければならない。また、インストラクターは署名しなければならない。
7. インストラクターは、水中およびトップサイドでのすべてのトレーニングイベントを受講者の記録フォルダに記録しなければならない。

#### コース構成：

1. すべてのトピックは、温暖で透明度が高く、最大水深9メートルの穏やかな海域で水上スクーバシステムを使用することを想定しています。
2. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる。

#### コース時間：

1. 学生の接触訓練時間の目安は8時間。

## 13.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. SDIダイバー登録フォームをSDI本部に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで生徒を登録することにより、適切なSDI認定証を発行する。

## 13.8 トレーニング教材

以下の資料が入手可能である：

1. SDIオープンウォーター・スクーバダイバーマニュアル。
2. SDIログブック。
3. SDIコンファインドウォーター/オープンウォーター・ティーチングスレート。
4. SDI スキルチェックオフスレート。

## 13.9 必須器材

各生徒に必要な用具は以下の通り：

1. シャローウォータースクーバシステムを含む：
  - a. 3.8~5リットル/28~40立方フィートの高圧エアシリンダー。
  - b. 自動膨張装置付き浮力補償装置（BCD）。
  - c. 一次および交互の二次ステージを備えたレギュレーター。
  - d. 水中圧力計と水深計。
2. マスク、フィン、スノーケル

3. ウェイトシステム。
4. 必要であれば、露出スーツ。

## 13.10 学科アウトライン

インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。オンラインコース（）では、以下のトピックをカバーしなければならない：

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. ダイビングの歴史
2. 水生環境：
  - a. 視界
  - b. 光
  - c. 音
  - d. ヒートロス
  - e. 潮汐
  - f. カレント
  - g. 波
  - h. 波浪
3. 海洋生物によるケガ
4. 物理学と生理学：
  - a. 浮力
  - b. 圧力
  - c. ボイルの法則。
  - d. エアスペース：
    - i. 肺の過膨張障害
    - ii. 耳抜きテクニック
  - e. 圧力下で空気を吸う：
    - i. 減圧症
    - ii. 窒素中毒。
    - iii. 酸素（O<sub>2</sub>）毒性。

iv. 一酸化炭素（CO）中毒。

5. スキューバ装備：

- a. マスク、フィン、スノーケル
- b. 保護スーツ：
  - i. ウェットスーツ
  - ii. ドライスーツ
- c. 浮力補償装置（BCD）。
- d. レギュレーター：
  - i. プライマリレギュレーター
  - ii. オルタネイトエアソース
- e. シリンダー：
  - i. 使用する。
  - ii. 取り外しと交換。
  - iii. 手入れと点検の必要性。
- f. ウェイトシステム
- g. 水中計器：
  - i. 水中圧力計（SPG）。
  - ii. ダイブウォッチ
  - iii. 深度計

6. アクセサリー

- a. ダイブフラッグ
- b. レスキューシグナル
- c. ナイフ／刃物。
- d. ログブック
- e. スレートだ。

7. 潜水計画：

8. ダイバーフィットネスと過剰運動

9. バディシステム

10. ファーストエイド(応急手当)

### 13.11 スキル達成条件と修了条件

講習生は、以下のスキルを限定水域(コンファインドウォーター)にて正しく実行できなければならない：

1. 水泳の評価（スキューバスキルを教える前に完了している必要があります：）
  - a. a.任意のストロークを使用し、ノンストップで200m泳ぐか、マスク、シュノーケル、フィンを使用し、ノンストップで300m泳ぐ。
  - b. 10分間のサバイバル・スイム／フロート。
2. スキューバのスキル
  - a. 機器の組み立てと分解
  - b. 適正ウエイトでのウエイトシステム調整
  - c. 水面でのウエイト脱着
  - d. 深度でのウエイトシステムの取り外しと交換。
3. 潜水前のセルフチェックとバディチェック
4. 深度のある部分マスクはクリア。
5. 深度ではフルマスククリア。
6. マスクなしで水中で呼吸したり泳いだりすること。
7. BCDの使用方法：
  - a. 地表でのインフレーションとデフレーション（経口／自動）。
  - b. 深度でのインフレとデフレ（自動）。
  - c. 表面での取り外しと交換。
8. 浮力コントロール：
  - a. ホバリング。
  - b. コントロール浮上
  - c. コントロール潜降
  - d. ダイビングの予定深度または9メートル/30フィートのどちらか大きい方を超えないこと。
9. レギュレーターの使用法：
  - a. 水面での呼吸、クリア、リカバリー
  - b. 水中での呼吸、クリア、リカバリー
  - c. 代替空気源の使用；コントロールされた上昇をしながら、バディと空気を共有すること。

10. 水中スイム；適切なフィンキック

11. 出入り口：

- a. 着席したまま入場できる。
- b. バックロールエントリー。
- c. ジャイアント・ストライド・エントリー。
- d. 浅瀬の出口。
- e. 深水出口。

12. シュノーケル使用：

- a. 調整だ。
- b. 整地；ブラスト法。

13. 残圧計の使用

14. 水中通信。

15. 救助のテクニック

- a. 疲れたダイバーの曳航。
- b. けいれん緩和。

16. 大気圏外緊急事態：水泳による上昇をシミュレートし、水面に到達した時点で正の浮力を確立する。

**このコースの修了条件：**

- 1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す
- 2. *SDIオープンウォータースクーバダイバー Knowledge Quest* または同等のSDI電子/オンラインラーニングエグザムを十分に完了してください。インストラクターは、SDIオープンウォータースクーバダイバーデジタルインストラクターリソースに掲載されている追加試験を使用することができます。
- 3. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。

## 14. インドアダイバー

### 14.1 イントロダクション

この認定コースは、大型屋内プールで、インストラクターの直接監督なしに、トレーニングと同様のコンディションでダイビングを行うために必要なスキルを講習生に指導することを目的としている。このプログラムを完了したダイバーは、オープンウォーターでのダイビングを行う資格がありません。

### 14.2 定義

**屋内プール**=塩分濃度、塩素、濾過システム、加熱、冷却などの方法で水質や状態を管理できる、閉鎖された水域。プールの大きさは、6メートルまたはそれ以上の深さの部分と、ダイバーが水面から頭を出して立つのに十分な浅さの部分がないといけない。一般的に水泳に使用され、住宅地にあるプールは、本研修における屋内プールの定義には当てはまらない。

### 14.3 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. 屋内プールで、最大水深18mまで、トレーニングと同様のコンディションでダイビングを行う。
2. 同レベル以上の認定インドアダイバーとダイビングを実施します。
3. 減圧停止を必要としないダイビングを実施してください。
4. SDIオープンウォーター・スクーバダイバーにアップグレード。

### 14.4 指導できるインストラクター

アクティブステータスのSDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクター

### 14.5 講習生とインストラクターの人数比

**アカデミックだ：**

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限はない。

**閉鎖水域（プールのような状態）プール：**

1. インストラクター1名に対し講習生最大8名



2. インストラクターは、アクティブなアシスタントインストラクターまたはダイブマスターのサポートがあれば、さらに2名の生徒を追加することができます。
3. 1人のインストラクターが水中で指導できる生徒の人数は、2人のアシスタントインストラクターまたはダイブマスターの助けを借りて、合計12人です。

#### 屋内プール

1. インストラクター1人につき生徒は最大8人まで。状況に応じてこの人数を減らすことはインストラクターの裁量に任されている。
2. インストラクターは、アクティブなアシスタントインストラクターまたはダイブマスターのサポートがあれば、さらに2名の生徒を追加することができます。
3. 1人のインストラクターが水中で指導できる生徒の人数は、2人のアシスタントインストラクターまたはダイブマスターの助けを借りて、合計12人です。

### 14.6 講習生参加前条件

1. 18歳以上、10歳以上17歳未満は保護者の同意書が必要。
2. 10歳から14歳までの生徒は、以下の条件を満たす場合、SDIジュニア・インドア・ダイバー認定を取得することができます：ジュニアの生徒は、親、保護者、または現役のダイビング専門家の直接指導のもとでトレーニングとダイビングを行うこと。
3. SDIジュニア・インドア・ダイバーが15歳になったら、ジュニア・インドア・ダイバー・アップグレード・フォームに記入し、Worldに提出することで、SDIインドア・ダイバー認定にアップグレードすることができます。

### 14.7 コース構成と時間

#### 水の執行：

1. 生徒は最低4回の屋内スキューバダイビングを終了し、1回のダイビングで最低15分間水中にとどまり、合計80分以上潜らなければならない。
2. トレーニングの深さは6メートルから18メートルの間でなければならない。
3. スキューバダイビングは1日3本まで。
4. 全てのダイビングは日中の明るい時間帯に行うか、または日中の明るい状況を想定して行わなければならない。
5. ダイビング修了後に講習生はログ付けをしなければならない。また、インストラクターは署名しなければならない。
6. インストラクターは、ダイビング中に写真やビデオ機材を携帯することはできません。

**コース構成：**

1. SDIでは、講習生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

**コース時間：**

1. トレーニング時間の目安は20時間。

## 14.8 事務手続き

**事務手続き項目：**

1. 全ての講習生からコース費用を徴収する
2. 講習生が必須器材を所有していることを確認する
3. 講習生にスケジュールを伝える
4. 講習生は以下の書類の必要事項を記入する：
  - a. SDI一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
  - b. SDIダイバーメディカル/参加者チェックシート

**コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：**

1. SDIダイバー登録用紙をSDI本部に提出するか、SDIウェブサイトのメンバーエリアからオンラインで生徒を登録することにより、SDIインドアダイバー認定証を発行する。

## 14.9 トレーニング教材

**以下の材料が必要である：**

1. SDIオープンウォータースクーバダイバーマニュアルとSDIナレッジエストブック（またはSDIオープンウォーターダイバーオンライントレーニングコース）。
2. SDIオープンウォータースクーバダイバーインストラクターガイド。

**利用可能な推奨教材：**

1. SDIログブック。
2. SDIオープンウォーター・スクーバダイバー・ビデオまたはDVD。
3. SDIオープンウォーター・スクーバダイバー・パワーポイントプレゼンテーション。
4. SDIコンファインドウォーター/オープンウォーター・ティーチングスレート。
5. SDI スキルチェックオフスレート。

インストラクターは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

## 14.10 必須器材

本マニュアルのセクション2に記載されたオープンウォータースクーバ器材。例外として、ダイブコンピュータは必須ではないが、深度計は必須である。

## 14.11 学科アウトライン

下記のトピックをコース中にカバーしなければならない：

1. ダイビングの歴史
2. 水生環境：
  - a. 視界
  - b. 光
  - c. 音
  - d. ヒートロス
  - e. 潮汐
  - f. カレント
  - g. 波
  - h. 波浪
3. 物理学と生理学：
  - a. 浮力
  - b. 圧力
  - c. ボイルの法則。
  - d. エアスペース：
    - i. 肺の過膨張障害
    - ii. 耳抜きテクニック
  - e. 圧力下で空気を吸う：
    - i. 減圧症
      1. 反復潜水。
      2. 安全停止。

3. 緊急減圧。

4. 減圧は省略：

- ii. 窒素中毒。
- iii. 酸素中毒
- iv. 一酸化炭素中毒。
- v. 混合ガス。
- vi. 過呼吸、浅瀬でのブラックアウト。

4. スキューバ装備：

- a. マスク、フィン、スノーケル
- b. 保護スーツ：
  - i. ウェットスーツ
  - ii. ドライスーツ
- c. 浮力補償装置（BCD）。
- d. レギュレーター：
  - i. プライマリレギュレーター
  - ii. オルタネイトエアソース
- e. シリンダー
- f. ウェイトシステム
- g. 水中計器：
  - i. SPG(残圧計)
  - ii. ダイブコンピューター
  - iii. ダイブウォッチ
  - iv. 深度計
  - v. コンパス
- h. アクセサリー
  - i. ダイブフラッグ
  - ii. 機材バッグ。
  - iii. ログブック
  - iv. スレートだ。

- i. 施設内で使用が許可されている機器。
5. 潜水計画：
- a. ダイバーフィットネスと過剰運動
  - b. 新しい屋内ダイビング施設のオリエンテーション。
  - c. 施設内での正しいダイビングマナー
  - d. バディシステム
  - e. ファーストエイド(応急手当)
  - f. ダイビングのスケジュールを立てる
6. 次は何だ？
- a. 他の屋内施設を探す
  - b. SDIオープンウォーター・スクーバダイバーの認定を受ける。

## 14.12 スキル達成条件と修了条件

講習生は、以下のスキルを正しく実行できなければならない：

1. 水泳の評価（スキューバ・スキルを指導する前に完了している必要があります：）
  - a. マスク、シュノーケル、水泳補助具を使用せず、任意のストロークでノンストップで200メートル泳ぐか、マスク、シュノーケル、フィンを使用してノンストップで300メートル泳ぐ。
  - b. 10分間のサバイバル・スイム／フロート。

注：ダイビングスーツを着用する場合は、水面で自然な浮力となるようウェイト調整が必要。

2. スキューバのスキル
  - a. スキューバシステムの組み立てと分解
  - b. 適正ウェイトでのウェイトシステム調整
  - c. 水面でのウェイト脱着
  - d. 深度でのウェイトシステムの取り外しと交換。
3. 潜水前のセルフチェックとバディチェック
4. 深度のある部分マスクはクリア。
5. 深度ではフルマスククリア。
6. マスクなしで水中で呼吸したり泳いだりすること。
7. BCDの使用法：

- a. 表層でのインフレーションとデフレーション（口唇／パワー）。
  - b. 深部での膨張と収縮（経口／パワー）。
  - c. 表面での取り外しと交換。
  - d. 深部での取り外しと交換。
8. 浮力コントロール：
- a. ホバリング。
  - b. コントロール浮上
  - c. コントロール潜降
9. レギュレーターの使用法：
- a. 水面での呼吸、クリア、リカバリー
  - b. 水中での呼吸、クリア、リカバリー
10. 水中スイム；適切なフィンキック
11. 出入り口：
- a. 着席したまま入場できる。
  - b. ジャイアント・ストライド・エントリー。
  - c. 浅瀬の出口。
  - d. 深水出口。
12. シュノーケル使用：
- a. 調整だ。
  - b. b.整地；ブラスト法。
  - c. c.水面でのレギュレーターシュノーケル交換。
  - d. d.フル装備で水面シュノーケルスイム。
13. コンピューターの使用：
- a. データを読み、理解する。
  - b. コンピュータの機能を理解する。
14. 残圧計の使用
15. 水中通信。
16. 救助のテクニック
- a. 疲れたダイバーの曳航。

b. けいれん緩和。

17. エア切れの緊急事態：

a. コントロールされたスイミング上昇。

b. 代替空気源の使用；コントロールされた上昇をしながら、バディと空気を共有すること。

18. 水中ナビゲーション

**このコースの修了条件：**

1. 潜水計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す

2. *SDIオープンウォータースクーバダイバー Knowledge*

*Quest*または同等のSDI電子/オンラインラーニングエグザムを十分に完了してください。インストラクターは、SDIオープン・ウォーター・スクーバ・ダイバー・インストラクター・リソースCDに収録されている追加試験を使用することができます。

3. オープンウォーターに必要なすべての項目を安全かつ効率的にクリアすること。

## 14.13 インドア・ダイバーからオープンウォーター・スクーバ・ダイバーへ

### アップグレードの手順

SDIオープンウォーターダイバーにアップグレードする全てのSDIインドアダイバーは、以下の要件を満たす必要がある：

1. 講習生はSDIインドアダイバーとして認定されている必要があります。

2. 次のトピックをカバーする追加の学科セッションを実施する必要があります。

a. 海洋生物によるケガ

b. 水生環境。

i. 潮汐

ii. 波

iii. 波浪

c. アクセサリー：

i. ダイブフラッグ

ii. レスキューシグナル

iii. ナイフ

- d. 水中ナビゲーション
  - i. コンパス
  - ii. 自然だ。
- 3. 最低2回のオープン・ウォーター・ダイブを修了すること。ダイブ修了に必要な追加スキルについては、インストラクターの判断に委ねることができる。ダイビングは以下を含む：
  - a. 現地の環境についてのブリーフとデブリーフィングを完了する。
  - b. 緊急時の手順